

のんびりした温かい心の人々～マレーシア～

前クアラルンプール日本人学校 教諭

北海道河東郡鹿追町立鹿追小学校 教諭 山川 修

1、マレーシアの地理、自然・気候と歴史

「クアラルンプールって何処？」アジアだとは分かって「マレーシア」という国名が出て来るのは、正直言ってどのくらいいるのだろうか？そして、その知識たるや子どものころ社会科で習った「多民族国家、錫とゴム」地図帳で位置を確かめると赤道直下。赴任時こちらの空港に着くや否や、蒸し暑さがジワーと襲って来ました。季節風の影響を受けて高温多湿。雨季と乾季があるものの四季の変化はなく、年間を通して最低気温25度～26度、最高気温は35度～36度。激しいスコールは、北海道の吹雪？を連想させてくれます。

面積は約33万平方キロメートル（日本の87%）人口は約2220万人（同18%）で、国土の70%は熱帯性のジャングルです。首都KLに住んでいても、その周辺にはジャングルがあります。

文字通り人種のるつぼ。マレー系（約60%）中華系（約28%）インド系（約9%）および少数民族で成り立っています。学校でも髪の色が金色・茶色、染めても問題になりません。

ジャワ原人のものとよく似た石器が発見されているマレーシア。人類の歴史は古いです。東南アジア地域の中心と言う地理的条件と優れた指導者に恵まれたマラッカ王国（1400年ごろ）からマレーシアの本格的な歴史が始まり、イスラム商船をより多くひきつけるため、この時代にイスラム教に改宗しています。「多くの卸商人とおびたしい交易船の集まる全世界で最も豊かな港」といわれるほどになりました。

それゆえ、ヨーロッパ諸国から見ると一番最初に侵略的になりました。まずポルトガルがやってきました。日本にキリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルは、ここから日本に向かったのです。

次にやってきたのがオランダとイギリス。1824年からはイギリスが完全にマレーシアを植民地に。アジアの歴史は、ヨーロッパの支配の歴史です。このイギリス支配を打ち破ったのが1941年、太平洋戦争で、イギリスに変わったのが日本です・・・。

太平洋戦争は1941年12月8日の日本軍の真珠湾攻撃が皮切りと覚えていた私ですが、実はそれより2時間早い午前1時30分ごろ、日本軍はマレー半島・コタバル（今のマレー半島北部）に上陸し、イギリス軍と戦闘を開始したのです。わずか55日間でマレー半島1100キロを南下、その後今のシンガポールまで。このときの中心は銀輪部隊。自転車です。

当時の自転車がクアラルンプール市内の博物館に展示されていて、私は、いたたまれない気持ちになります。ジャングル地帯で、当時の日本軍が建てた通信司令室等を見ましたが、当時の様子がリアルでした。

また、カンポンホームステイ（田舎のマレーシアのお宅にホームステイ）の際には、そこの長老の方から日本軍がこんなことをした、という辛いお話を聞かせて頂きました。私たち、日本人は事実は事実として、理解しておかなくては行けないことと思います。

第2次世界大戦後はイギリスが支配に戻ってきましたが、マラヤ連邦として独立（1957年）、マレーシア連邦（1963年、シンガポールとボルネオ＝サバ州・サラワク州など＝を加える）そして、シンガポールの分離・独立（1965年）を経て現在に至っています。

毎年8月31日は独立記念日。心から喜びを表しているお祝いの日だということが、あらゆる催し物から理解できます。

2、クアラルンプール日本人学校 (Japanese School Of Kuala Lumpur= JSKL)

での特色ある教育

正式名称は長く「在マレーシア日本大使館附属・クアラルンプール日本人会日本人学校・クアラルンプール日本人学校」と言います。海外校は私立学校です。授業料・バス通学代・学校維持建設資金負担金等、我が家も納めてます。

3階建て、エアコン完備、パソコン室、プールと、どれもすばらしい施設です。幼稚部もあり、小・中と合わせて1048名のマンモス校です。

いよいよ本題。海外校ならではの特色ある教育をいくつか紹介します。

(1) ECの授業

英会話の授業です。週2時間、小学部1年生の児童から現地スタッフが指導します。なぜ、マレー語でないのか？前述した通り、長いイギリスの支配の影響で都市部では英語が通じます。多民族国家ゆえ、英語が共通語となってしまったこともあります。公用語は勿論マレー語です。現地の子どもはマレー語、英語とも使えますし、更にマレー系の子たちはアラビア語（イスラム教の経典コーランを読むため）中華系の子たちは中国語（これが色々）インド系の子たちはタミール語も話します。語学力は、日本では想像できないことかも知れません。

環境が教育を作る、ということでしょうか。さらに言えば、帰国後は、マレー語より英語、という保護者のニーズも背景にあるのかな、と考えます。

低学年（1年生～3年生）はEMという、音楽やゲームを多く取り入れた授業が展開され、子どもたちにとって、楽しい学習となっています。遊び感覚で英語を学んでいけるのです。

(2) 国際交流会

現地校と交渉し、それぞれ招待と訪問をします。内容は各学年で計画するのですが、JSKLへ招待するときは、日本文化資料室へ案内することが定番のようになっています。

この部屋は、日本の四季が分かる展示物や浴衣、下駄、ひな人形、また日本の古い時代の道具も展示されています。そして圧巻は32畳の畳の部屋がある。きっとKLサイズの大きい和室です。ここで日本茶をご馳走したり、正座をしたり…。私はこの部屋で布団を敷いて寝てみたい…。



こま、けんだま、竹馬も豊富にあります。現地の子どもも、夢中になります。遊びは世界共通。言葉の壁も、何のその。

訪問したときには、マレーシアに伝わる遊びや固有の楽器を使っでの演奏や踊りを披露してくれたりします。現地の学校を訪問する意義は大きく、日本人学校との施設の違いやシステムの違いに自然と気がつきます。トイレに紙がないこと等、生活習慣の違いも身をもって知ります。自然にはなかなか現地の子どもたちとの交流が少ないのが現実ですから、交流を続けることは大切な現地理解のひとつとなります。2年間、同じ学校・同じ子どもたちと続けて交流するよう計画しています。

言葉の壁はあるものの、子どもたちは大人と違い、遊び等、体を存分に使った活動で交流していくうちに心も通い合っていきます。1・3・5年生と担任した私ですが、低学年ほど早く、すんなりと交流が進み、仲良くな

るような感じです。言葉は要らない??

(3) カンボンホームステイ

これは、小学5年生以上の希望者を対象にしたものです。カンボン（田舎、という意味）に2泊3日ホームステイです。大都会のKLのコンドミニアム（セキュリティのしっかりしたマンションみたいなもの）暮らしで現地の方と生活を共有する機会の少ない日本の子にとって、身体でマレーシアの生活をそっくり感じられる貴重な場です。

事前学習

マレー語の学習を4回実施。その中では、マレーシアの生活習慣・遊び等を学び、失礼のないように……。なんて、マレー人はとても優しいので、そんなに硬くは考えていませんが…。引率の私たちもホームステイするので、一緒に頑張りました。開・閉会式と交流会以外はそれぞれホームステイ先にお任せになるので、教師自身、あまり引率という感じではありません。それよりも子どもと同じで、ホームステイ先で元気にやっていけるか…という心配が若干。かなりジャパニーズの生活とは違うのです。

開会式

公民館に児童とホームステイ先の家族が集い、開会式。挨拶等セレモニーの後、いよいよ子どもたちは一人ひとり名前を呼ばれ、ホームステイ先の家族と顔合わせ、そしてそのままその家族とともに各家庭へ行きます。一人ではなく、二人一組でホームステイします。

緊張している顔・顔・顔、不安と期待が交錯。見ていてなんとも言えません。これが閉会式のときには、和やかで元気いっぱいの打ち解けた顔になるから不思議です。パーパ（マレー語でお父さん）イーブウ（お母さん）と言って、すっかり家族のようになります。

期間中

小さい村に日本人が引率を含めて70名ほど。日本語を聞くのも初めて、という人たちがほとんどです。それでも、やはり、向こう側も事前に学習をして「こんにちは」「ありがとう」「おはよう」と日本語を駆使してきます。

びっくりしたのですが、小学校からマレーの子どもたちは、まずマレー語を学び（日本でいう国語で、授業の会話等当然マレー語です）その他にも週に1回英語の時間があり、更にアラビア語（イスラムの教え、経典を読むためだそうです）も学ぶのです。私のホームステイ先には赤ちゃんから10歳まで4人の子どもがいましたが、10歳の子どもは、マレー語をマスター仕切れていない私のことを思い、英語で会話。これがまた完璧。完全に私の英語力のほうが負けています。（私の英語力の低さもありませんが…）アラビア語も教えてもらい、名前（山川）をアラビア語で書いてもらいました。

日本人は、あまりにも悲しいと思います。日本にいと日本語だけで全て生活出来るのですから仕方ないのかもしれませんが、国際舞台でもっと力を発揮するためにも語学力は重要です。

生活力もたくましいです。ゲームボーイのようなゲームやビデオ等を楽しむこともあるのですが、子どもたちはまず、外で遊んでいます。手製の駒（紐を巻いて、投げて回すタイプのもの）をよく回していました。サンダル等も持っているのですが、はだしで外に出ます。足の裏、怪我するぞ、という場所でも平気です。駒の芯は釘。足に当たったりしても元気です。古き良き日本の姿と。

果物豊富。周りにはたくさんの果物がなっています。パイナップル、バナナ、ジャックフルーツ等。食べ放題です。絶対餓死することはないと思いました。一年中、何か実をつけているのですから。

ドリアンも克服？匂いにも食感にも慣れ、ほぼ平気で食べられるようになりました。悲しいかな、まだデリシャス！とはいきませんが、うまいドリアンは最高... もう少しで果物の王様と感じられるのでしょうか？日本では1個6000円はするという果物です。が、こちらでは、ほとんど0円？

売ってもありますが、取って食べてOKなのですから。ランブータンと言って、食感は日本の梨のような果物がおおいかったです。小さいので何個でもいけます。最初、上手に皮をむけなかったのですが、完璧にマスターしました。

川も自然そのまま。「やご」や「魚」がたくさん。トラックの荷台に8人乗って、道なき道を進み、小川へ。日本の子どもたちは大はしゃぎ。そこに残されたら絶対迷子です。

蚊に刺されまくり。これは夜の話。エアコンもないし網戸なんかないので、当然蚊がやってきます。初日は寝ていたのか痒くてかいていたのか分かりません。これも不思議で、2日目は半減以下。免疫がすぐ出来た？とは思いますが、馴れなんだなあと感じました。いっしょにその家の子どもたちと寝たのですが（勝手に布団に入ってきた可愛い子どもたちです）彼らは平気なのですから。

右手で食べる。これは、箸・スプーン・フォーク等を使わず、です。これも慣れでしょう。味は辛かったですが、これも慣れでしょう。飲み物は甘い。とにかく甘い。子どもたちの中で2名ほど体調を崩した子がいたのですが、いろいろな違いで、疲れもあって、かなあ。この甘さも慣れでしょう。

マンディ。これは水浴び。風呂に入る習慣のないマレー人は、1日数回水浴びをします。お祈り前等です。日本の浴槽のようなものがある、そこにためて置いた水をすくって浴びるのです。これは、気持ちいいです。石鹸・シャンプー等を使う習慣がないようですが、不潔ではありません。歯磨きの習慣もありません。まあ、2泊3日なので耐えられましたが、これが1週間だと頭がかゆくなりそうで、つらいです。私は、汗をいっぱいかきますから。この汗のかきかたも当然違います。日本人の中でもそうですが、マレー人と比べると更に違います。ちなみに、ためて置いた水の中では蛙が泳いでいました。

同化。バイク。勿論車もありますが、バイクが多いのです。3人乗りをしているのをよく見かけたのですが、マレーの民族衣装を着て、頭にトドンを巻いている日本の子が「せんせーい」と声をかけるまで気づかず。完全にマレーに同化していました。日本はアジアの一員です。欧米の真似をしてはいけな、欧米人にはなれな、いんだ、と、誰かに言ってあげたいです。

交流会

2日目の夜です。こちら側から、和太鼓・琴・盆踊り（これは会場の人全員で）、向こう側からは、コンパン（マレーの楽器）演奏や歌・民族舞踊・武術。

1番の盛り上がりは、最後に全員で歌った「バリ カンボン」の歌。バリは帰る、カンポンは田舎の意味。つまり、故郷へ帰ろう、故郷はいいところだ、という内容の歌。のりのいい曲で、踊りだす等々。スピーカーから流れる音より大きい声でした。すごい盛り上がりでした。

閉会式

3日目の午後2時から。それぞれお土産をもらったり等で、すっかり打ち解け記念撮影等、別れが惜しそうでした。中には、バスの中にまで入ってきて話したり写したり...。本当に心温かいマレー人です。

付録

当然、なじめずに終わる子どもたちもいます。「食べられない」「汚くてつらかった」「虫が多すぎるよ」等々。残念ですが、その感覚も仕方ないのかもしれないかもしれません。

「不潔だから面白いんだ」と言う子は、いい経験になったはずです。都会育ちで、綺麗好き世界一と言われる日本人ですが、それでいいのか？トイレトペーパーを使わなくていいじゃない！とされている感じがしました。

長男・大地も参加。「来年も行く」と言っていて逞しさを感じ嬉しく思っています。今まで、見知らぬ食べ物にあまり手を出さなかったのが、少し改善されるか？？？本当によかったです。果物等もうOKだと。

「バイク、速いなと思ってメーター見たら90キロ越えてた。」とも。ごく普通のカブみたいなバイクですから、ちょっと怖いですが、まあ、いいかあ。

イスラム教のお祈り、マンディ（風呂に入る習慣はなく、水浴びです）、トイレ（トイレトペーパーを使わず、洗う・拭く）、箸を使わず素手（右手）で食事、そして大自然に身を預ける体験ができます。私も体験しましたが、人生観が変わります。のんびりしたリズムが流れているのです。日頃あれこれとスケジュールが決まっている現在の子どもたちにとって、絶対ここでなければ味わえないものがあります。宗教上・生活習慣上のことを感じるひとときです。

日本とマレーシア間で友好関係が出来て、日本の大学に留学経験のある人たちが構成されている団体の協力がとても大きいです。

いずれにしても、この行事は治安がいいからこそ出来る物です。田舎でホームステイを実施している海外校なんて、ないのではないのでしょうか？

<ドリアンの木>



(4) 各学年で

校内は日本社会そのものです（1部違いますが...）が、一步外に出ればそこはマレーシア。各学年、年間カリキュラムを作成する時点で、それらを取り入れる様々な工夫があります。3年生を担当したときに多くの校外学習を設定しましたので、今回は3年生に限ってお伝えします。

社会科では地域教材が登場。子ども達にとってはマレーシアが地元です。そう、幼い子ども達にとっては日本の記憶が薄く、すんなりとマレーシアの環境を受け入れているのです。日本と比べて...という発想は、日本をよく知る大人の発想です。総合的な学習と絡め、体験重視です。

ジャバンクラブ(以下J.C.)

J.C.は、日本で言う公民館的な役割も持っています。前のJ.S.K.Lの校舎が、J.C.になっています。ここを訪れると必ず知っている子に会います。図書館、レンタルビデオ屋、レストラン、マーケット等、日本人にとってはとても便利な存在になっています。日頃から行っているところですが、それでも見学で向かうと新たな発見があります。会議室、各種サークル、そして現地の人々が日本を学ぶコーナーの存在にも気がつきます。「探検」という言葉だけで、子どもたちは真剣に見ます。建物内は、自由に動き回れ、グループ行動で見学しました。

会議室... でかく立派です。日本人会の今後の行き先を検討する場です。

クッキングルーム... 調理室です。集って調理・会食等が楽しめるのです。

和室・小部屋... 茶道、生け花、その他各種サークルが利用できます。

公民館の要素を備えているのです。屋上では、バーベキューができます。JC って便利だな、JC がなかったらどうなるのだろうか？など、主題に迫る感想が多くありました。

KLタワー。

通信タワーとしては世界で4番目の高さ。小高い丘の上にあるので、眺めは更によいです。説明は英語でも通訳さんのおかげで問題なし。展望台では、日本語で解説してくれるヘッドホンが用意されていて、快適に見学できます。大人15RM、子ども9RMで展望台に入れます。学校の建物はさすがに見えませんが、よく知っている建物や自分の住んでいるところ等を発見できます。

一般客（見学者・観光者）に混じっての見学ですので気を使いますが、日本からの観光客にも会って説明したりと、さすが、住人です。

展望台ですが、この部分は実は5階建てになっていて、一番下が一般客が入れる展望台です。その上（2階）にはレストラン（今回は行きませんでした。これも一般に利用できます。）さらにその上（3階）には何と各種の部屋がありました。今回、ここで説明を聞いたり、ビデオを見たり、クイズをしたり...。景色も2階高いとちょっと違います。その上（4・5階）は通信室となっていて、関係者以外は入れません。

スーパーマーケット、日系企業ジャスコ。

自宅から車で10分ほどの距離になるワンウタマというショッピングモールに、日系企業ジャスコがあります。

今回は、スーパーマーケットの部分を見学しました。店舗を大改装した直後で綺麗でした。この辺り一帯は他のスーパーの進出も決まり、競争が激化しそうなところなので、先手を打ったというところかと思えます。

平日で15000人、週末は30000人以上が訪れる、まさにマンモス市場です。このジャスコは、日本国内のジャスコも含め、売り上げナンバー1の店舗だそうです。確かに我が家も多く利用しています。



<ジャスコ内・パン作りの様子>

日本人の好みの商品は勿論、現地の人たちもたくさんの購買力をそそる商品構成。ノンハラルの豚肉コーナー（ワニの肉などもここにありますが）は、やはり別に設けられています。ウサギの肉なども売られています。我が家はチャレンジしたことはありませんが...

日本からやってきた豆腐屋がこの大改装に伴い、登場。

寿司コーナーは、中島水産が日本から航空便で取り寄せたネタを使っています。米は「SUMO」というアメリカ産米を使っていました。寿司を握るのはロボットです。

パン屋も日本人向けのパン作り。

寿司ロボットやパン工房の内部、商品の管理部分や生鮮食料品の準備等、じっくりとみせてくれました。

とにかく、普段入れない店舗の裏側を見学できて、大喜びでした。冷凍室にも入れてもらい、大はしゃぎ。久しぶりに寒さを感じるひと時でした。

そうそう。食材は、全てハラルが大切。お菓子にもハラルが影響します。イスラム社会を感じる時です。

ハラールマークがついていると、安心してモスリムも食べることが出来ます。気をつけて見ると、あちこちの商品についているんです。このハラールマークや、一筆が。このハラールマーク等は、マレーシアならではのものです。

日頃、海外ゆえ子どもたちだけでショッピングモールで買い物をする機会がほとんどないので、金額を決めて買い物もしました。一人10RM（日本円で約300円）ですが、日本の商品を買うのか、現地の商品を買うのかで買い物できる量が大きく変わってきます。あまり、価格を気にしない子どもたちも、この時は真剣に考え、計算していました。価格のついていない商品の値段を調べることのできる機械も発見してくれました。店員さんに、英語で聞いたのです。えらい。ちなみに、ジャスコはマレーシア国内に9店舗あります。



<オージービーフもハラールなのだ！>



<ハラールマークが付いているの、分かる？>

モーニングマーケット。

日本の市場とはずいぶんと違っています。アジアンパワー爆発の雰囲気味わってくれました。正式名称は「PASAR BESAR DEWAN BANDARAYA」と言います。マレーシア政府管理のマーケットで、287店舗が入居。野菜、豚肉、鶏肉、魚、フルーツ、食堂、花、衣類等あらゆるものが売られています。

朝5時から夜8時までの営業時間。平日は1000人、週末は4000～5000人が訪れるマーケットです。イスラム教の関係でノンハラールの豚肉はGフロアへの駐車場の隣にあります。裸の刺青入りのおじさんが豚をバッサバッサとさばっていて、迫力と言うか恐ろしさがあります。

匂い？ ノープロブラムです。



<豚肉コーナー（GF）>



<魚コーナー（1F）>



<花コーナー（1F）>

工場で働く人、ロイヤルセラランゴールピューター工場。

マレーシアの特産品、錫を使ってコップやコースター、飾り物等を製造している工場です。日頃、目にした

ことのあるコップが、どのようにしてできるのか、自分たちの目で見る事が出来たのは、感動を呼びます。

アンパン地区にあるこの工場から世界中に輸出されています。650から700種類の製品があります。

ピューターは、錫(97%)と銅・アンチモニ(3%)を混ぜてつくられています。ひとつひとつ、全てが手作業。模様や彫刻は熟練の技が必要です。それぞれの部品が作られ、そのつなぎは「はんだ付け」。その後磨き、模様をつけて完成。

工場内に、見学コースが設けられています。いつでも誰でも少人数なら予約なしで見学できます。ここにも日本語で解説してくれる方がいます。でも、ただたどしい日本語なのでしっかり聞いていないと分からなくなります。私は、子ども達に日本語を日本語に通訳したり、それは日本語でこういうんだ、と、解説のお姉さんの指導係?になってしまいました。

見学が終わると、ショールームへ。ジュースをご馳走になった後、入ります。さすが、高価。でも、手作業の見学を見た後なので、何となく納得してしまいます。

農業で働く人、オーキッドガーデン(蘭の花を栽培しています)

チンタ オーキッドは、南国・常夏の気候を生かし、1年中美しい花を育て出荷しています。日本にも輸出しているところで、その畑の美しさに感動します。ランの花が咲き乱れていました。日本でも胡蝶蘭等有名で、芽室の近所の知り合いも趣味で栽培していたのを思い出しました。

世界では、25000種類以上もあるそうです。交配等で増えつづけていると・・・。世界で一番大きな花は「ラフレシア」ですが、ランの花では「カトレア」。

花が、女性が踊っているように見えることから名のついた「ダンシングレディ = 正式名称ONCIDIUM」。これは、お土産に頂きました。

このチンタ オーキッドは創業18年。ここでつくられたチンタオーキッドと言うランの花も黄色で綺麗でした。斜面に作られ(風通しが良いので)土ではなく炭を使って栽培(水はけが良いので)されていました。種から育てると、最短でも2年以上はかかるそうです。

黒色のランだけは、未だに無いそうです。

消防署。

私たちの住んでいるセランゴール州(日本でいうと北海道等の都道府県)の中心となっている中央消防署です。「Fire and Rescue Department Malaysia。 Jabatan Bomba Dan Penyelamat Malaysia」へ。学校からバスで30分ほどのシャーラムにあり、やはり大きな大きな消防署でした。

ここの署員の中には、過去に日本へ研修にいらしている方が数名いて、日本語を少し話せてびっくりしました。この仕事に入ってから、消防の研修だそうで大変だったと。6ヶ月から1年と長期研修です。

ですから、「ISUZU」のはしご車がありました。ヨーロッパ製のもあり、消防車だけを見ても面白いです。訓練施設も併設されていて、降下訓練等、暑い中やっていました。文字通り体力が必要です。

化学工場火災用の服や一般の服を見たり実際に着せてもらって体験したり、はしご車に乗せてもらい大満足、サービス満点でした。子供たちも感動。

日本と比べ、火災が少ない...日常、あまり目にしないだけに貴重な体験となりました。

日本と違って通報電話番号は「119」では、ありません。



3年生128名の引率ですから
いろいろと気を使いますが、楽しいもの
です。やはり「百聞は一見にしかず」
です。その中から、自然と子どもたち
自身が得るものは大きいです。

海外にいて、実社会に出なければ
もったいないです。

3、マレーシアでの生活

(1) ガソリン給油システム

こちらのガソリン給油は、全てセルフ方式。自分で入れます。もっとも、スタンドには人もいて、顔なじみになった私が行くと、向こうからやってきて給油したり、窓を洗ってくれたりします。拭くのではなく洗うのです。このおじさんは従業員で、内緒でただで洗車機にかけてくれたり、ときには次回の無料洗車券までくれるいい人なのです。

さて、本題。まず、車を給油口のそばに停め、カウンターに行って「RM分入れる。」と、言ってお金を払います。満タン給油したいときには、50RMほど支払い給油後清算します。つまり、ガソリンは自動的に止まります。この辺までは日本も同じなのだろうと思います。凄いのは、キャッシュレスで簡単に入れられることなのです。給油口のそばにカードを挿入できる場所があって、ピザカード等を利用して入れられるのです。ですから、請求はカード会社から後日送られて来ます。まあ、私は前述の通り、おじさんやカウンターのお姉さんと仲良く交流？するために利用したことはありません。お姉さんは覚えた日本語を使ってきますし、私は覚えたマレー語で返事をします。

(2) 高速道路料金支払いシステム

ゲートのところで券をもらって高速を下りるときにその券を元に金額が決定され支払う、のは日本と同じです。が...

タッチアンドゴー

これは、一種のカードです。高速道路に入るときにそのカードをある場所に触れさせ、出るときも同様に触れるだけでその機械が読み取り、カードから使った分の金額が引かれます。カードを事前に50RMとか100RM分購入しておく、そのカードから利用金額が引かれるのです。少なくなってきたら、また窓口等で金を支払いチャージするのです。

スマートタグ

さらに進んでいます。これは、スマートタグと言う機械で、その機械の中にタッチアンドゴーのカードを入れ、車のフロントガラスなどに設置しておくのです。すると、高速道路の出入り口にある機械に反応し、勝手に引かれます。車は止まる必要がなくなり、窓を開けることもありません。

毎朝の通勤はけっこう混雑しているのですが、このスマートタグは高いので、設置している車もそれほど多くないので、スムーズに走れます。高速に出入りするゲートが違うので、そのゲートだけが空いていたり、せっかちな日本人には必需品です。ただ残念なのは、ガソリンスタンドのようにゲートのお姉さんと話せなくなってしまうことです。挨拶やちょっとしたミニ会話は大事なのです。

日本より、このシステムの普及率が高いです。

(3) 米は、年3回収穫

収穫と言えば秋のイメージを持つのは当然の日本ですが、こちらは米が年3回取れたり、そうした感覚は全くありません。

(4) 銀行のATM

24時間年中無休です。つまり、いつでも現金が引き下ろせるのです。勿論、手数料等一切なし。銀行だけではなく、ショッピングモール等あちこちにこの機械が設置されていますので大変便利です。

(5) 買い物

マレーシアでは、買い物は一度にドーンとまとめて買う傾向が強いです。ですから、ショッピングセンターのほとんどは買い物かごだけではなく、カート(4輪車でかなり大きい。外国の映画でスーパーの様子でよく出てくるやつです)を備え、それを使って買い物をします。我が家もご多分にもれず利用します。

しかし、これが通路をふさぎます。また、ふさいでしまっても平気なマレーシアン。遠慮なんかしていたら、一向に進めません。そもそも大勢で賑わっているのに、歩くペースは北海道・十勝以上に遅い。買い物をしているというより、涼しさを求めてショッピングセンターに来ている感じです。

事実、買い物袋をあまり下げて歩いていないのですから。慣れても、けっこうこの通路ふさは、いらいらしてしまいます。

(6) 並んだ意味があるの???

これも面白い現象。銀行は、第2・第4土曜日が窓口オープン。仕事が休みなので、必要なときはこの日を利用します。凄く混雑します。そこで考えました。

朝9時30分窓口スタートですが、ちょっと前に行って少しでも少しでも早く用を終わらせようと思うのは、世の常。私も2回ほどトライしました。

1回目

9時25分着。前に6人ほどいて、私が7番目。綺麗に一列で並んでいます。そして、入り口が開くと突然それまでの列が乱れ、ドアに殺到。びっくりしました。何のために並んでいたのだ??と。ただ啞然。

こうした場面もチャイニーズは凄い。抜け目ないです。私はどうなったって?私は、後ろのチャイニーズに押され4番になりました。いいの?これで?誰も文句ひとつ言いません。不思議です。

2回目

これも同じ銀行・同じ場所です。が、並び方が違う。入り口(1ヶ所)から扇状に並んでいました。並んでいるというより、集まっている感じ。これは嫌な予感がします。そして、その結果は?

ひどい。マレーのおばさんはつぶされる。若いチャイニーズは、整理券(自動発行です)を一人で何枚も発行するので。私はおばさんの保護に追われ、順番はぐっと下がりました。用件を終わらすのに1時間以上かかりました。車は混んでいても必ず入れてあげる暗黙のルールがあるのに、銀行は全く違いました。

(7) 北海道物産展

毎年10月、KLCCの伊勢丹で上記物産展が開催されます。毎年、秋の味覚として、実施しているそうです。

帯広・柳月の三方六(28RM=840円)や白い恋人(12枚入り33RM=990円)といったお菓子類から、毛がに(1尾49RM=1470円)さけフレーク、生ラーメン、昆布、十勝コロッケ(そんなブランドないぞ!1個3RM=90円)十勝おはぎ、玉ねぎ、男爵、ワイン、そして、松尾のジンギスカン(32RM=960円)等々。

いつも大好評です。日本人だけでなく、現地の人も大勢来ていました。子どもたちが「先生、北海道のコロッケっておいしいね!」「牛乳の味が違うよ、北海道っていいなあ」「おれ、日本に帰ったら先生のところ行く」なんて言うのです。けっこう多くの子がこの催しに行っているのです。

私は三方六をゲットしようと思って行きました。すると、品切れ・売り切れでした。初日で売り切れたと。ロイズのチョコを売っているお姉さんが「こちらもおいしいですよ。いかがですか?」と。味見だけしました。買いません。二男・元希は「夕張メロンキャラメル(5.5RM=175円)、長男・大地は「十勝大福(3個で9.9RM=300円)」をゲット。心から喜んでいる姿に「飢えていたのだ」と感じました。

別に無くてもいいのですが、あるとなると欲しくなるから不思議です。

(8)ハリラヤ・プアサ

1か月間のラマダン(断食)が終わった日。この日から約1か月間行われる催しは盛大なお祭りです。

ハリはマレー語で「日」、ラヤは「偉大」、プアサは「断食」を表しています。さて、どんなのか?

そもそも、断食期間中はイスラム教徒にとっては日の出から日の入りまでの間、食べたり飲んだりすることを断ちます。さらに、タバコ、娯楽、パーティーや映画などもひかえるのです。この暑いマレーシアで...。私なら乾上がってしまうこと。西暦とイスラム暦は一致しないので、真夏にこのラマダンを迎えることもあるのですから、厳しい修行です。

夕方(午後7時頃)になると、食事をしようと料理を注文し、食べるのを待ち構えているモスリムが大勢。この期間、特別に屋台などがでて、仕事帰りなのか、とにかく食べたいのか、こうした光景があちこちで見られます。モスクから食べていいぞの合図?のような放送が入ると、一斉に食べ出すのです。面白いです。

JSKLで共に働くスタッフもこの期間は元気がありません。私たちも彼らの前で食べたり飲んだりしないように気を使います。

郵便局が通常より早く閉まります。さすが、イスラム国家です。

断食明けの初日、王宮や首相官邸、大臣の家がオープンハウスになります。このときは、誰でも入れるのです。首相官邸では、マハティール首相と握手も出来るのです。食事も食べたいだけ食べたり飲んだり出来ますし、お年玉も貰えるのです。長蛇の列と聞き、1年目はやめたのですが、2年目は行きました。すると...

ちょっと出発が遅くなり、11時30分自宅を出て、首相官邸のあるプトラジャヤまで高速を使って...。快調です。故郷に帰った後か車も普段より少なく、いい感じ。官邸そばの駐車場は満車で路上駐車OKに。人はさすがに多かったのですが思ったよりもスムーズに歩いて、「これは意外と早く会える?」と思いながら進んで行くと...

とうとう、官邸入り口でストップ。でも、それほどの人はいなくて良い感じと思い、待ちました。されど、待てども待てども、OKが出ません。気がつくと、もう後ろは人人人。暑い中、群集の中に身を置くのは大変です。汗は、もう止まりません。私たちはやはり現地の人と比べると、汗をかく量が多い...観察の結果です。倒れる人も出て来ましたが、救護班もばっちりいるのでノープロブラム?

この場所で、2時間近く待ちました。途中、何故か進めてその間に二男・元希だけがうまく突破し、座って

扇風機の前で涼んでいました...

「さあ、会える」なんてのは甘かったです。ここは第一段階。また、待つポイントがありました。でも、ここからは扇風機もあって少し、楽になりました。ここはそれほど待つことなく通過（それでも30分くらいは待ったかなあ？まあ、慣れ？たのでしょう）しました。

いよいよ、官邸の中へ。以前、見学で入っているの、覚えている場所があちこちに。そして...

どこで会えるのかな？握手できるのかな？と思っていると、いきなりいたのです、マハティール首相が...。首相も何時間も立ちっぱなしでしょうが、にこっと握手。ソーラン節のこと等いろいろ話すことを考えていたのですが、「Selamat Hari Raya」しか話せませんでした。うーん、残念。

握手のあとには、子どもにはお年玉（中身は新札1RM）とお土産（これは、握手の列に並んだ者全員が貰えます）を頂きました。

食事だけなら並ばず、すぐにでもOKです。場所がちょっと違うのです。もう、ジュースをがぶ飲みしたのは当然です。



<握手後、頂いたお土産です>



<お年玉？新札の1RMが中に...>

この時期は、ほとんどが故郷に帰る回教徒です。前後1週間・計2週間の休みが一般的で、一般企業も大型連休になるところが多いです。やはり、マレー人がいての経済活動です。サマサマ！

近所の家も前日から電飾で飾られたりして、賑やかな雰囲気です。小さな子どもに至るまで綺麗に身なりを整えています。マレーシアの民族衣装、いい感じです。帰国までに、是非1着・手に入れておきたいと思います。

(9) タイプーサム

ヒンズー教徒にとってはディパバリと並ぶ2大行事...祝日です。「タイ」とはヒンズー暦の10月のことで、この祭りは、この月の満月がかに座の最も明るいプーサムの星座と交わる日に行われます。

この祭りは、身体に串やかぎ針をつきさして、カバディをかつぎ歩き？ます。発祥地のインドでは、危険であるという理由でこの行事は禁止されていますが、マレーシアはOKなので、世界中のヒンズー教徒が集まてきます。

その地、パツケーブには、もう大勢の人人人...。髪の毛を切って何かを頭に塗っていたり（もう切った髪の毛が山のようになっています）ゴミの山（何日も前からこの地に到着し待っている教徒もいるので、生活の場と化しています）

何百段の階段で、誰かが転んだらどんな惨事が起こるのか???二男・元希は、「匂いが我慢できない」

と話していました。



<痛そう、でも血は出ていません>



<トランス状態?かなあ>

(10) チャイニーズニューイヤー

文字通り、チャイニーズのお正月です。中国系(28%)の人々の盛り上がりは凄いです。我が家の隣の住人もチャイニーズですが、玄関に真っ赤な掛け軸?みたいなものを飾っています。日本でいう門松を飾るようなイメージです。

みかんも大量に売られています。中国潮州産のみかんで段ボールに入って売られています。まさに、日本の師走の光景です。お年玉は、紅包(アンパオ)と呼ばれ、赤い袋なのです。

この国で経済を握っているのはチャイニーズですので、この期間(1週間くらい)は店のほとんどが閉まったりで、商売はほとんど無し。寂しい街になります。マレー系の店は開いています。日系の店は??

何と平常どおり「ジャスコ」が営業していました。いや、通常より閉店が1時間延長されて長くなりました。さすが、日系。チャイニーズが閉まっているうちに儲けようという魂胆か??

チャイニーズニューイヤーのときの肝心の中国寺院。天后宮という寺へ行きました。ジャパンプラブのそばで、高台にあるのでKL市街が一望できます。

とにかく人人人。日本の初詣です。ほとんどがチャイニーズ。私たちがチャイニーズに似ているはずですが、やはり違いを感じます。中国に行くとかんな雰囲気かな?と考えました。

おみくじみたいなものもあり、さい銭をいれて祈るところあり、健康にいいのか水のあるところに行列ができていたりしていました。日本の正月を思い出しました。

家のコンドミニアムの前のチャイニーズの家では「ししまい」が行われています。出張ししまいようです。この獅子舞は「ライオンダンス」と言われ厄除けのためにお問い合わせするそうです。金持ちの家です。とても賑やかです。

デパート、道路は閑散としていて渋滞や人の波にもまれることなく、快適な期間です。

(11) その他

いつまでも続いてしまいますので、この辺で終わりとします。

世界一の高さを誇る「ツインタワー」(日本と韓国で建設)

「KLタワー」等、中心部はビル群で、大都会です。

暑さには、慣れるものです。人間の適応能力は、すごいです。

日本食、食材も全く心配ありませんでした。



日系企業「ジャスコ」「伊勢丹」「紀伊国屋書店」があります。
何と、北海道・十勝おはぎがブランド商品として売っています。 <世界一の高さ・ツインタワー>
感激です。ただ、何でも日本の物は現地の物と比べるとかなり割高です。全て現地で生活すると、かなり経済的に余裕が出来ると思いますが、食文化は長年の生活で培われてきたものですから、簡単には変身できません。いっそのこと、なければ諦めるのだと思いますが、いつでも金さえ出せば手に入るので、驚きです。品数も多いです。

トヨタ・三菱・ホンダ・ナショナル・JVC・日立等日系企業の進出が進み、バブル崩壊後の現在、企業数・児童数とも減ってきてはいますが、元気です。月一回開催の日本人会主催ソフトボール大会は、24チームが参加しています。

のんびりしていて何が起きようとノープロブラムのマレー系。せかせかした社会ではなく、穏やかに暮らし、時間が進んでいます。優しく、好意的です。一円でも多く稼ごうという中華系。商売はチャイニーズの勝ちです。

ストリートチルドレンが田舎でも見られない、平和で豊かな国マレーシア。モスクがあちこちにあり、1日5回のお祈りの時間はスピーカーから大きな音が…。それも慣れるものです。

車も自由に運転できます。東南アジアではマレーシアだけかと思います。東洋の真珠「ペナン島」には車で3時間。高速道路があり、片道約360キロ。早過ぎる？こちらではそれが当たり前です。そういえば、ガソリンより水のほうが高いです。ちなみに、ガソリンは1リットル1・3RM=39円です。

タバコも日本企業のもはマイルドセブンが売っています。5RM=150円です。

4、終わりに

息子達が水泳をこちらでも続けています。そのおかげで、現地チャイニーズとの付き合いがたっぷり。(マレー系は、イスラムの教えで人前で肌をみせない、がありほとんどいません)

遠くまでの遠征のときは休暇を取り、大会後旅行になります。が、私は、そうはいきません。「何故、休まないんだ。」「つまらないだろう。」と。確かにそうですが、日本人はそう簡単には休まない？彼らには、生活を楽しむ姿がはっきりとあります。

英語のシャワーを浴びせられ、何とかやっていた私です。私が日本語を教え、向こうがマレー語を教える勉強会も開きました。仲介するのが英語ですから大変です。でも、楽しい交流でした。

5、PS・おまけはエアコン故障の中で参観日

年に1度の休日(土曜日)の全校参観日。仕事が休みということもあって、両親揃って参観されるケースがほとんどですので、もう大勢の人人人。そんな中……。

朝学校に行くと、エアコンが効かない！！3年生4クラス全て。慌てて事務室へ行き大至急直してくれ、と。しかし、3つのクラスはまもなく復旧したが我が3年1組は？？？部品交換しなければダメだ。今日は無理だと。何？？？

教室の全ての窓を開け、わずかに抵抗。でも、暑い暑い。保護者も加わると100人近い人が教室にいるのだ。あとは想像にお任せします。子どもも大変だった。私も、保護者も。

一生忘れられない参観日となった。

ちなみに、振替休日明けの火曜日も一日中故障。この日4時前から修理にかかり終了は9時30分。本当に重症だった。でも、おかげで暑さに慣れた。この週の金曜日は午後から停電でエアコン作動しなくなった。でも、暑く感じない3年1組の子ども達と私であった。



<KLCC 公園にて、後ろはKL タワー>



<ある水泳大会場・屋根つき50M>